

多摩川流域の放射能汚染を多数の視点から共同調査するプロジェクトを開始



多摩川流域放射線調査プロジェクト 柳戸 清

多摩川流域放射線測定プロジェクトは2012年に立ち上げたばかりの新しい会ですが、放射線取扱主任者を含む構成メンバーの多くは既に多摩川上流から河口に至る区域において、環境問題やそれに関連する調査や放射線測定に活動されてきた方々です。会の結成により、メンバー間のより細かな情報交換が行われ、多数の視点からの共同の調査と分析が可能となり、多摩川全体の放射能汚染を俯瞰できるメリットを享受しております。

測定対象は空間線量、土壌、魚類と多種に及び、ちくりん舎のゲルマ測定装置で核種毎の放射線を高精度に検出していただけるバックアップに大変満足しております。

2011年3月、フクイチからのブルームが多摩川の水源地帯にも襲来し、山地は広く放射能に汚染されました。樹木の枝や大地に付いた放射能核種は、徐々に風や雨により移動し、平野部に今なお流れ下っております。

多摩川に沿った街々で $0.05 \mu\text{Sv/h}$ 以下が普通だった放射線の空間線量は、フクイチ事故から3年が過ぎた今でもホットスポットが点在し、 $0.23 \mu\text{Sv/h}$ を超えるポイントも確認しています。

そしてその場所は、幼児が砂遊びをする場所でもあるのに放置されたままです。

多摩川流域には、上流から下流まで放射能の濃縮源となる、各自治体のゴミ焼却場や下水処理場が建ち並んでいます。なかでも多摩川上流日の出町には、1998年から稼働する三多摩400万人分の焼却灰のエコセメント化施設（二ツ塚処分場）と、その直ぐ南西の1984年から14年間でゴミ埋め立て完了した谷戸沢処分場があり、二次三次の汚染源となっています。これらの施設からは放射能核種が、ほぼ毎日、排気ガスや物質に付いて空中に放出され、埋め立て焼却残渣からは汚水や地下水が下水を通して、多摩川へ流入しています。

私達はこのプロジェクトを通じて、多摩川が少しでも天然の川に戻り、ここを利用する人たち、特に子供たちが楽しく自然と接することが出来るように、管轄の行政機関が、発生源の特定と防止策、汚染の除去への注意喚起を促していきます。

なお、本プロジェクトで得た測定値は、GPSデータを元に、地図上にプロットされ、見易く理解され易い形で公開しています。みなさんの環境資料としてのご利用を期待しております。